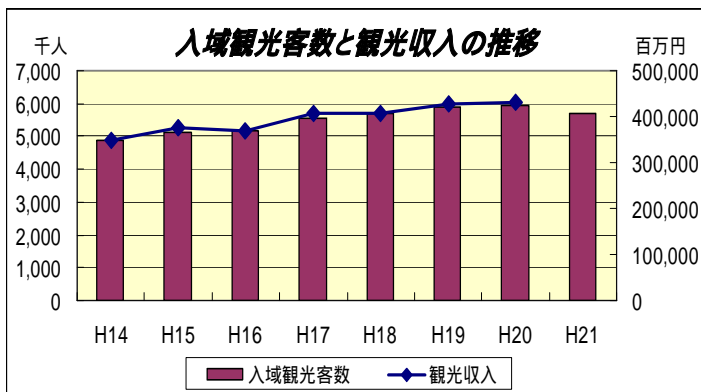


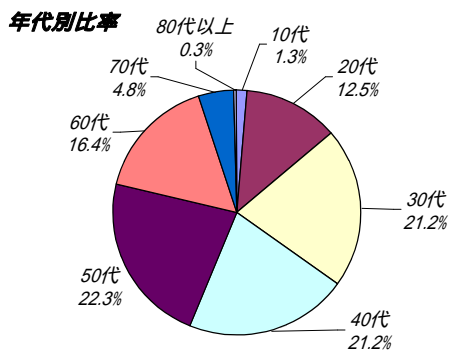
入域観光客の動向について



県観光企画課発行「観光要覧平成20年版」より

沖縄県の入域観光客の動向を見ると、平成14年度以降は年々増加し、平成20年度は入域観光客数及び観光収入がともに過去最高の593万人及び4,299億円を記録した。

**平成20年度
観光統計実態調査より**

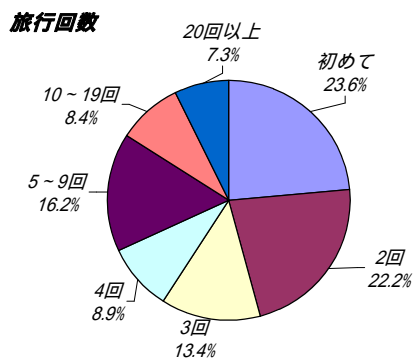


年代別比率

年代別比率は、「50代」が22.3%と最も多く、次いで「30代」「40代」が21.2%、「60代」16.4%、「20代」12.5%となっている。

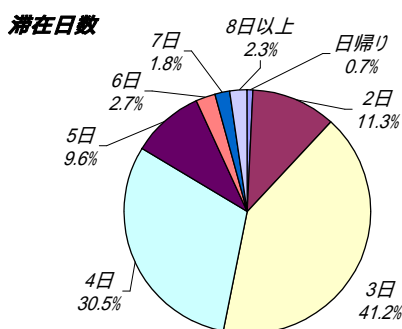
旅行回数

旅行回数は、「初めて」が23.6%と最も多くなっているが、「初めて」の比率は年々減少しており、平成9年以降は「初めて」をリピーター(再来訪者)が上回っている。



滞在日数

滞在日数は、「3日」の41.2%が最も多く、次いで「4日」が30.5%、「2日」11.3%となっている。平成20年度調査における観光客の平均滞在日数は3.71日となっている。



旅行内容

旅行内容は、「観光地めぐり」の68.0%が最も多く、次いで「沖縄料理を楽しむ」が40.3%となっている。

旅行内容

観光地めぐり	68.0%
沖縄料理を楽しむ	40.3%
ショッピング	26.7%
海水浴・マリンレジャー	25.1%
保養・休養	23.2%
仕事	10.7%
戦跡地参拝	10.2%
その他	48.5%

複数回答

ちなみに、平成21年度の入域観光客数は新型インフルエンザの影響や景気悪化による旅行控えなどで569万人(前年度比24万人減)と大幅減となった。

平成22年度は「九州・沖縄サミット首脳会合」開催10周年、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録10周年という沖縄観光にとって節目の年であり、このほど発表した沖縄県の「ビジットおきなわ計画」では、入域観光客数の目標値を600万人と設定して、「やっぱりいいね おきなわ」を新キャッチフレーズに誘客活動を展開することとしている。

ビジットおきなわ計画: 将来の観光客1千万人を目指し、平成19年度から毎年度ごとに作成している沖縄県の誘客行動計画。